北から南から

災害・避難カード作成と自助を促す共助の取組

愛媛県大洲市　三善公民館長／三善自治会長
窪田　亀一

1 はじめに

愛媛県大洲市三善地区は、明治22年の町村制実施により旧村である春賀村・東宇山村・多田村が一つになってできた旧三善村域にあたります。以後２度の市町村合併を得て現在に至っております。中央には、一級河川肱川が流れており、昔から、肱川の氾濫による水害に度々悩まされてきた地域です。

2 三善地区自主防災組織の取組

三善地区では、内水による住宅・農地の冠水が度々発生していました。歴代の自治会長を中心に災害から命を守ることを理念としていましたので、大洲市の中でも先陣をきって、行政指導の下、自主防災組織を結成しました。

・平成18年2月10日三善地区自主防災組織結成
・平成27年8月三善地区防災計画策定

3 災害・避難カード作成取り組み状況

内閣府による平成28年度災害・避難カードモデル地区事業に採択され、内閣府・国土交通省・気象庁・県・市の方々のご指導を得て、地域住民が主体となって「名刺タイプ」と「リーフレット版」の２種類の災害・避難カードの作成に取り組みました。

第１回ＷＳ　地域の災害について学ぶ
第２回ＷＳ　災害・避難カードを作成
第３回ＷＳ　災害・避難カードを基に避難訓練

まず、浸水想定区域として「昭和18年」の水害をベースに作成することに決めました。毎回80名程度の参加者があり、地区によって避難行動が異なるため８班に分かれＷＳを行いました。第３回のＷＳでは、自宅から班ごとに決めた一次避難場所へ避難してもらい、その後、市の指定避難所に移動して災害・避難カードに必要な情報や形態について意見交

災害・避難カード（リーフレット版）表

災害・避難カード（名刺タイプ）表

災害・避難カード（名刺タイプ）裏

換を行い、最終決定となりました。

4 地域住民への周知徹底

平成29年度に三善地区の全世帯に災害・避難カードを配付するため、各世帯から１名以上の参加を募り、各行政区（17区）で災害・避難カード活用方法と題して地域主導でＷＳを行いました。

ＷＳでは、気に掛ける人や一次避難場所などを決め、災害・避難カードに記入し、それを各家庭に持ち帰り家族に周知してもらいました。また、冷蔵庫など常に家族が目にする場所に災害・避難カードを貼ってもらうため、自主防災組織からマグネットとカードケースも配付しました。

5 平成30年７月豪雨（西日本豪雨）当日の避難行動

04：00 多田・峠地区は連絡網などで車の移動や今後の避難行動について協議。集会所に避難を呼びかけた。

05：00 田辺集会所で避難者を受け入れる準備開始

07：00 三善公民館に対策本部設置（本部長・副部長４名の内２名・副部長２名は現場）
民生児童委員による独居の方の安否確認、避難行動支援
現場の副部長（２名）とは随時連絡

08：00 有線放送で、災害・避難カード（名刺タイプ）を持参して避難行動をするよう呼びかけた。各区長に、住民の安全と災害・避難カード（リーフレット版）で決めた内容に基づいて避難行動するよう電話連絡を行った。

09：00 三善公民館も浸水する可能性がでてきたため、二次避難所への移動を協議。近くの変電所へ避難場所として使用したいことを本部長が交渉。使用許可を受け、11：00～避難開始とした。

10：00 備蓄食糧で昼食

11：00 変電所への二次避難開始

12：00 避難者移動完了

12：30 市対策本部へ避難所を変電所へ変更したことを連絡

14：00 和田下集会所で避難者受入れ

16：00 肱川の水量が減って数時間経過後、変電所で夜を過ごすより、毛布や食料等の備蓄など防災設備がある指定避難所へ移動した方が良いと判断、指定避難所（公民館）へ移動

6 おわりに

西日本豪雨では、戦後最大の大水害に見舞われ住宅87棟が浸水被害を受けました。固定電話が不通になり、上水道の供給が止まり避難者に対し炊き出しが１度しかできない事態となった中、三善自治会で購入していた備蓄米・保存水を自主防災組織で避難者に配食しました。

これだけの大災害にもかかわらず、１人の死傷者を出さなかったことは、内閣府のモデル事業により、地区住民全員が命を守る大切さを認識し続けてきたことにあると考えます。

①三善地区住民の横のつながり、②地域全体での情報共有、③状況に応じた避難行動、など、自分の命は自分で守る、地域は地域で守る、自助、共助の取組を中心に、行政の公助による補完体制を構築しながら、引き続き地域を守る活動を続けて参りたいと考えております。

最後に、この場をお借りしまして災害ボランティアに来ていただきました方々、支援物資を送っていただいた多くの方々など、落胆していた地域住民に希望を与えて頂きましたこと、誠に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。